



# あかねだい

学校便り 11月号  
平成30年11月22日  
横浜市立あかね台中学校

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/jhs/akanedai/>



## 学校教育目標 『学ぶ・鍛える・共に生きる』

- (1) 生活や学習の基礎基本を通して、主体的に課題を見だし解決する力を身につけた生徒を育てます。【知】
- (2) 礼儀や規律を大切にし、夢や希望、感謝の心をもった生徒を育てます。【徳】
- (3) 心身共に健康で、自他の生命や自然を尊重する生徒を育てます。【体】
- (4) 社会の一員としての自覚と責任をもち、よりよい社会を実現しようとする生徒を育てます。【公】
- (5) 体験を通して自らの可能性を知り、広い視野に立ったものの見方や考え方を身につけた生徒を育てます。【開】

## 「声」

学校長 栗原 秀樹

毎年、この時期に大陸から渡ってくる「じょうびたき」という小鳥がいます。大きさは、すずめよりわずかに小さい鳥で、この時期、甲高い「ヒッ」や「ヒッ」という鳴き声と「カッ」という打撃音のような声を組み合わせ、体を震わせながら鳴いています。その鳴き声は遠くまでよく響いていて、姿を捜すと枝先や電柱など高いところに止まり、胸から腹が橙色をしている鮮やかな姿を見つけることができます。

「今年も頑張って海を渡って来てくれたのだね！」と心の中で呟くとともに、季節の移ろいを感じます。鳴くのは、自分の縄張りを主張するためだと言われていています。個体間のコミュニケーションの手段として鳴き声が使われています。

「声」と言えば 10月の合唱コンクールでは、6年生が小中交流の一環として3年生の合唱を聴きにきてくれました。その感想を読んでもみると、「中学生の歌声の大きさや、きれいさにとても驚きました。」「歌詞の意味を込めて強弱をつけ、聴いていて感動しました。」「中学生になったら私も同じように歌いたいです。」といった声をいただきました。中学生も小学生からそのような声を聞き、自分たちが懸命に歌った合唱が理解されたことに喜びを感じていることだと思います。来年の合唱コンクールで中学1年生として今の6年生がすばらしい歌声を披露してくれることを楽しみにしています。



また、こんなこともありました。朝登校してくる生徒に昇降口や通用門で「おはようございます」と声を掛けています。多くの生徒が、「おはようございます」と返してくれますが、中には無言の生徒もいます。あいさつの声を出すのは意外に勇気があることなのは、自分が中学生だった頃を思うと分かる気がします。ところが、その日登校時間を5分ほど過ぎて、昇降口を後にして歩き出した私の後ろ姿に向かい、「おはようございます」と声を掛ける生徒がいました。振り返って「どうしたの、遅くなって？」と聞くと、「寝坊して遅刻してしまいました。」としっかりと返事を返してくれました。あいさつをするのも恥ずかしいと思うのに、遅刻した理由もしっかりと答えられ、叱るどころか感心してしまいました。「声」を出すことの大切さや、「声」が人と人とをつなぐコミュニケーションであることを改めて感じた時でした。

「あかね」の「あ」はあいさつ、「か」は感謝、「ね」は熱意と生徒によく話しをしています。これからも「あかね」を合い言葉に子どもたちに向き合っていきたいと思っています。

## あかフェス2018 今年のテーマは…



# ジヤングル



今年度の“あかフェス2018”のスローガンは『十森十色』。

“ジヤングル”をテーマに、森のように1本1本の木が寄り添い、助け合いながら一つの大きな森をつくり上げていく様子を、合唱や有志の活動になぞらえて取り組んできました。

合唱コンクールに向けての練習は、9月の前期期末テストの後からスタートしました。今年度も作曲家・指揮者であり、また、編曲家として、2013年度NHK全国学校音楽コンクール（通称：Nコン）中学校の部課題曲『友 ～旅立ちの時～』（作詞・作曲：北川悠仁）の編曲を担当した相澤直人氏を講師に迎えて、3学年それぞれで合唱講習会を行いました。

生徒たちは積極的に相澤先生の教えを学び、吸収しようと取り組み、約1時間の講習会の中で見違えるように上達していく姿が見られました。

各クラスの合唱練習でも、伴奏者は朝早くから登校して指揮者と練習を重ねたり、パートごとに納得がいくまで音取りをしたり、少人数で合唱してハーモニーを確認したりと工夫を凝らして取り組み、また、他学年のクラスと交流会を行って刺激を受けたり感想を述べあったりするなど、当日まで切磋琢磨し続けてきました。

今年度のあかフェスは1日目を音楽の日と定め、合唱コンクールだけでなく、吹奏楽部や音楽部の発表も行なうなど、盛り沢山の内容となりました。

合唱コンクール本番では、どのクラスも遜色ない高いクオリティで合唱を披露し、観客を魅了しました。また、あかね台中校区の小学6年生との合同合唱による横浜市歌の合唱発表もあり、体育館が美しい歌声に包まれた一日でした。



また、今年度は12の有志団体が名乗りを上げ、体育館や道場、フロアなどでダンスやコント、バンドなどの発表を行いました。年を追うごとに参加団体も増え、クオリティも上がってきています。また、地域交流室と会議室での展示発表も、各学年や教科から素敵な作品が出品されました。

今年度で8回目となった“あかフェス”は、“あか中らしさ”が明確に打ち出されるようになりました。

合唱コンクール、有志発表、展示発表、そして、文化祭実行委員が趣向を凝らしたオープニングとエンディング。このどれか一つが欠けても“あかフェス”は成り立ちません。

しかし、この成功は、文化祭実行委員会をはじめとする各専門委員会や部活動による長期間にわたる事前準備がなせる業だと思えます。あかね台中学校の生徒・教職員全員が一丸となって作り上げる“あかフェス”の歴史を、今後も引き継いでいってほしいと思います。



# 平成30年度 合唱コンクール 審査結果

## 👑 最優秀賞 👑

1年1組 小室級「地球星歌」



## 🏆 優秀賞 🏆

1年2組 中島級「あさがお」



2年1組 森口級「結」



2年3組 大島級「虹」



3年3組 荒井級「親知らず子知らず」



3年4組 西門級「走る川」



## 人権講演会が行われました 11月9日

講師：リオデジャネイロ・パラリンピック銅メダル  
車いすテニス日本代表 二條実穂選手

二條選手は「日本一の大工の棟梁」になるという夢を持ち、24歳で棟梁の夢をかなえましたが、その後、足場から転落し、下半身が動かなくなりました。しかし、車いすテニスの存在を知り、「世界一の車いすテニス選手」になることを周囲に宣言し、2016年のリオ・パラリンピックに日本代表として出場、見事銅メダルを獲得されました。二條選手が今回、あかね台中学校の生徒たちに講演をしてくださり、生徒たちのみならず、教職員、保護者、地域の方々に深い感銘を残されました。次に挙げるのは、生徒たちの振り返りシートから抜粋した、反応です。

- ★「人生で起こる全てのことに意味がある」という言葉に感動した。
- ★「無理と言わない。明るくポジティブに生きる気持ちで自分の可能性を高める」という言葉で気持ちが高揚した。
- ★障害者をかわいそうと思っていた自分を恥じた。
- ★「自分の夢を宣言することで、誓った夢に責任を持つのだ」という言葉はすごい。
- ★「自分の境遇に言い訳をしない」という言葉に力強い説得力があった。
- ★二條選手の言葉は自分に向けられた言葉だと、聞きながら思った。

車いすテニスの実演を2年生の武士さんとしていただきました。武士さんにとっては、車いすでの打ち合いは予定になかったことでしたが、車いすテニスを体感したことで、その難しさを実感したようでした。2年後の東京オリンピック・パラリンピックでの二條選手の健闘をお祈りします。

## 30年度 部活動保護者 代表者会

10月18日（木）あかフェス1日目に各部活動の保護者代表者で構成される『代表者会』を開催しました。この会は本校の部活動等応援会の中に位置付けられており、年1回以上開催することになっています。まずは代表・副代表を選出し、代表はサッカー部保護者代表、副代表はバドミントン部保護者代表となりました。また地域コーディネーターより“応援マフラータオル”の説明がありました。

「『あかね台中をとにかく知ってもらおう。子ども達の活動をとにかく応援しよう。』との想いで作成したものです。そのため“販売”とは言わず“提供”、“値段”ではなく“応援価格”としています。ただ6名のコーディネーターだけでは手が足りないので、学校行事等で提供する際には保護者の方々にもお手伝い願いたい。」との事でした。

学校からは「31年度から部費の管理を各部活動保護者会にして、透明性をはかっていきたい。具体的な手順や運用については、各部活動顧問と相談して話をすすめて頂きたい。」とお願いしました。

## 部活動指導員の募集について

来年度に向けて、次の三つの部活動の「部活動指導員」を募集しています。

◎募集する部活動：「剣道」「バスケ男子」「新体操」

◎「部活動指導員」とは？

- ・今年度より導入され市の非常勤職員の身分で、単独で生徒の指導・引率が可能です。
- ・週5日・10時間を限度に、1日あたり2時間の勤務を原則とします。

詳細については学校までご連絡ください。☎045-985-5010